

平成 27 年度フォローアップ結果への対応状況

機関名	広島大学				
統括責任者	役職	学長	実施責任者	部署名・役職	理事・副学長（研究担当）
	氏名	越智 光夫		氏名	吉田 総仁

平成 27 年度フォローアップ結果

評点区分：順調に進んでいる

全体を通した所見

- 全学的な組織として、研究推進機構を設置し、その下に、「学術系」、「専門系」、「事務系」の多様な URA を配置し、年俸制、国際公募、テニュアトラックなどの制度改革に取り組んでいる。国際報道についても、「EurekAlert!」を利用するなど、対応が進められており、当初の構想に沿って順調に進んでいることが確認された。

特に優れた点

- 大学の有する 4 つの問題点を分析し、その改善に向かって、URA 制度を活用しており、研究力の分析面で優れた取組が見られる。また、本事業から 11 人、自主財源等から 60 人の URA (類似業務を含む) を雇用し、量的充実が図られている。
- 教員の個人評価の全学的体制が整備されており、今後の実効的な取組を期待したい。

期待する点

- 採択時にコメントした広島大学の強みの一つである人文・社会・教育系の改革について、一定の取組が進んでいることが確認されたが、英文論文の積極的発表などを含め、更なる取組と成果を期待したい。

平成27年度フォローアップ結果コメントに対する事業の課題と展望

【課題】— 研究力強化のための4つの強化方針とその実現のための研究環境・財政基盤の強化 —

本研究大学強化促進事業においては、4つの強化方針(①～④)を定め、研究力強化に取り組んでいる。この中で、URA組織体制の整備と併せて、全学の研究マネジメント体制下において選定された「研究拠点」に対し資源再配分を行うなど重点支援を行っている。もって、本学の特長ある学際・融合領域の創生と活発な国際研究活動の展開により、国際的評価の向上を図るなど、世界大学ランキングトップ100の総合研究大学に躍進することを目標に順調に取組を推進している。

当初実現構想に掲げているとおり、次の段階として、人事制度改革・組織整備などによる戦略的な重点支援の取組など**研究成果への実効的な取組が必要**であり、具体的取組課題を①～④の強化方針毎に、それぞれ以下のとおり掲げられる。

①URAをはじめとする研究推進体制・研究環境の整備

- ・国際産学連携活動推進のための体制整備(URAを含む高度研究マネジメント人材の育成・配置)を実施する。

②世界的研究拠点の継続的創出

- ・学際・融合領域の創生に繋がる卓越した教育研究組織(新研究科等)の構築のための研究拠点を形成する。

③優れた研究人材の確保育成のための競争的環境の確立

- ・若手教員枠の活用及び人事制度改革を活用した外国人研究者・女性研究者・若手研究者の獲得と活動支援を実施する。

④国際研究活動の活性化

- ・海外協定校との学術交流及び国内外研究者の招へい・交流を促進し、国際共同研究拠点を構築する。

これら4つの強化方針の実現のためには、⑤として、外部資金獲得による研究環境・財政基盤の強化が不可欠である。

また、「期待する点」に記載されている「**人文・社会・教育系の改革(英文論文の積極的発表など)**」については、人文社会系の国際発信力を高めるため、SCI論文に加え、SCI論文収録雑誌に匹敵する英文以外の収録雑誌リスト作成など、**教員の教育研究活動の重要指標策定を実施し、積極的研究成果発表の動機づけとなる取組・指標策定を行うこと**としている。

【展望】— 課題達成に向けた方針と体制 —

本学では、広島大学改革構想において、本学の特長となる教育研究組織及び柔軟かつ最適な教育研究体制を構築することとしている。

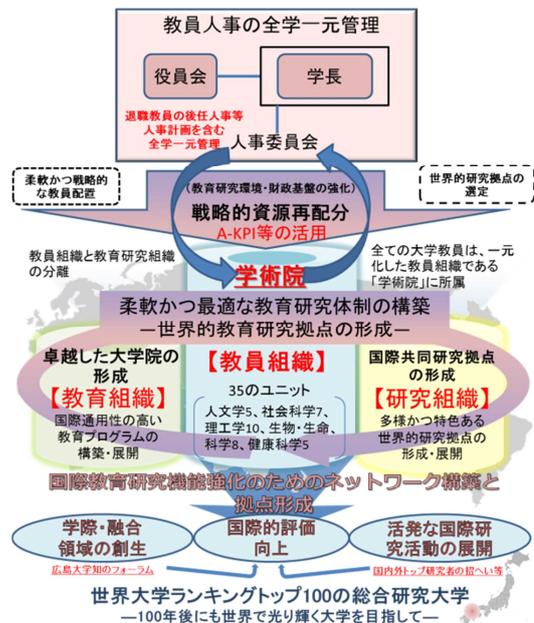
(詳細は右図参照)

研究大学(RU)強化促進事業において掲げた上記4つの強化方針に、更に、⑤外部資金獲得による研究環境・財政基盤の強化を加えた研究力強化方針に基づき、**柔軟かつ最適な教育研究体制の整備により、本学の特長ある学際・融合領域の創生と活発な国際研究活動を展開する**。結果として卓越した教育研究組織(新研究科等)を構築し、大学院の高度化とともに、本学の国際的評価向上を図ることとしている。

このため、平成28年4月から**教員組織を教育研究組織から分離し、全学一元化した教員組織である「学術院」を設置した**。これにより、教員の戦略的配置が可能となるとともに、これまで縦割りで進まなかった教員間の柔軟な学際領域研究グループ形成を活発化することが可能となった。また、「全学人事委員会」による退職教員の後任人事等の人事計画を含めた全学一元管理により、限られた資源を部局等の枠に捉われず、A-KPI等の指標を活用して強い分野への重点配分を可能としている。以上により、インキュベーション研究拠点の活発な活動、本学の特長ある自立型研究拠点への成長など、世界的教育研究拠点の継続的創出と展開が可能となり、**本学の特長ある学際・融合領域の創生と、活発な国際研究活動の展開を通じて、卓越した教育研究組織(新研究科等)の構築に繋げる**。(上記②、③の課題に対応)

更に、本学の強みを活かし、人文・社会・教育系等の学際・融合領域を創生し、国際研究ネットワーク形成を通じ、国際共同研究等国際発信力強化を図る。

それぞれの**研究力強化方針が相互に共通した取組**として、本学の特長ある学際・融合領域の創生と、活発な国際研究活動の展開を通じた、卓越した教育研究組織の構築がある。そのために、基礎研究から応用研究まで一体的に推進し、多様な研究拠点を継続的に創出・育成する。これらの研究拠点を適切に評価できるように研究マネジメント機能を強化し、重点領域に効率的な研究支援を行うこととしている。このため、**教員等が良好な研究環境の下で研究に専念できるよう、研究マネジメント活動の中核を担う高度専門職人材としてURAを配置・育成し、URA組織体制を強化する**。(上記①～⑤の課題に対応)



研究大学強化促進事業推進委員会コメント

○ 展望に沿って、取組を更に具体化し、その着実な実施と今後の展開を期待したい。